

文化財の研究情報の公開・活用のための総合的研究 (①企01-13-3/5)

目 的

本研究は、他機関との連携を図り、文化財の研究情報について、効果的に発信してゆくための手法を研究・開発し、文化財に関する研究情報の蓄積を行うとともに、公開・活用のための手法等について総合的に研究することを目的とする。また、東京文化財研究所の全所的アーカイブズの構築を推進する。

成 果

文化財アーカイブズのよりよい発信方法を開発研究するため、国立情報学研究所と共同研究契約書を交わした。この一環として、東京文化財研究所所蔵資料アーカイブズとして以下について研究協議会を重ねながら(8/2、9/11、11/18、12/19、2/27)実施した。

本年度からの新たな取り組みとして、東京文化財研究所アーカイブズ運営員会のもとにワーキンググループを組織し、全所横断的な研究資料アーカイブズの構築に向けて、以下についての協議(5/8、6/12、7/31、9/3、10/4、12/12、3/5)と作業を行った。

(1) 東京文化財研究所所蔵資料アーカイブズ『みづゑ』(試行版)：前年度一般公開を開始した創刊号～10号までのものについて点検評価を行い、修正と改良を加えた上で11号～50号を追加公開した(<http://mizue.bookarchive.jp/index.html>)。50号以降についてもデータ処理を進めた。

(2) その他：前年度に引き続き、写真図版を中心とする画集や図録類のデジタルアーカイブの構築に向けて、協議を重ねた。

東京文化財研究所刊行物アーカイブの構築については、基幹のひとつとして各種目録情報を集約して格納するシステムのプロトタイプとして「東京文化財研究所刊行物アーカイブシステム」を作成した。これに先立って、所内ワーキンググループの協議会を開催した(4/19、5/24、6/25、8/2)。また東京文化財研究所関係刊行物の目次情報を、美術関係文献検索のデータベースと一体化して試験的に公開を始め、誌面のデジタル化とデータ処理についても作業を続行した。

発表

- ・「アート・アーカイブの諸相」企画情報部研究会、2014(平成26)年2月25日、東京文化財研究所セミナー室：加治屋健司(広島市立大学)「美術アーカイブのなかの美術史」／上崎千(慶応義塾大学アート・センター)「アーカイブと前衛—表現の非永続性ephemeralityと資料体」／橘川英規(東京文化財研究所)「中村宏氏作成ノートに残された記録と資料—観光芸術研究所、東京芸術柱展を中心に」／加治屋・上崎・橘川「ディスカッション」
- ・綿田稔「文化財アーカイブズ構想について」東京文化財研究所総合研究会 2014(平成26)年3月4日 東京文化財研究所セミナー室
- ・丸川雄三・津田徹英・中村佳史・橘川英規・吉崎真弓「『みづゑ』のウェブ公開と美術アーカイブへの展望」企画情報部研究会、2014(平成26)年3月25日 東京文化財研究所企画情報部研究会室

研究組織

○綿田稔、田中淳、山梨絵美子、二神葉子、小林公治、津田徹英、塩谷純、小林達朗、皿井舞、城野誠治、井上さやか、橘川英規、中村明子、福永八朗(以上、企画情報部)、津村宏臣、中村佳史、吉崎真弓、丸川雄三(以上、客員研究員)、飯島満、佐野千絵(以上、企画情報部併任)、早川泰弘(保存修復科学センター)、山内和也、加藤雅人(以上、文化遺産国際協力センター)、高砂健介(研究支援推進部)